

特別報告

【演題】差別発言から20年

「あらゆる差別撤廃に向けて… 佐賀新聞の取り組み」



佐賀新聞社常務取締役・編集主幹

とみ よし けん た ろう

富吉 賢太郎さん

【プロフィール】

- 1949年12月 佐賀県佐賀市東与賀町生まれ。
- 1972年 4月 佐賀新聞社入社。文化部記者を振り出しに、その後は報道部で経済、農業、教育問題などを担当。報道部デスクや報道部長、文化部長など歴任。
- 1990年 6月 有田支局長時代、有田町と姉妹都市だった旧東ドイツ・マイセンを訪問。東西ドイツを隔てていた「ベルリンの壁」の崩壊から半年の様子をレポート。
- 2006年 4月 論説委員長。論説やコラム「有明抄」を執筆。
- 2011年 4月 取締役編集局長
- 2014年 6月 常務取締役編集局長
- 2015年 4月 常務取締役編集主幹

※佐賀家読(うちどく)ネットワーク顧問、佐賀県労働委員会公益委員、アバンセ評議員などを務めている。

記念講演(対談)

【テーマ】「貧困と生きづらさから考える 無条件の生存の肯定」



作家・活動家

あま みや

雨宮

か りん

処凛さん



部落解放同盟中央執行委員長

くみ さか

しげ ゆき

組坂

繁之さん

【プロフィール】

- 1975年 北海道生まれ。
- 1999年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』(太田出版/ちくま文庫)でデビュー。以来、「生きづらさ」についての著作を発表する一方、イラクや北朝鮮への渡航を重ねる。
- 2006年からは新自由主義のもと、不安定さを強いられる人々「プレカリアート」問題に取り組み、取材、執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。311以降は脱原発運動にも取り組む。
- 2007年に出版した『生きさせる! 難民化する若者たち』(太田出版/ちくま文庫)は、JCJ賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。

■主な著書

『プレカリアートの憂鬱』(講談社)、『雨宮処凛の闘争ダイアリー』(集英社)、『14歳からの原発問題』、『14歳からわかる生活保護』、『14歳からわかる生命倫理』、『14歳からの戦争のリアル』(河出書房新社)、『小心者の幸福論』(ポプラ社)、『何も無い旅 何も無い旅』(光文社文庫)、『排除の空気に唾を吐け』(講談社新書)、小説『バンギャル ア ゴーゴ』(講談社文庫)、『バカだけど社会のことを考えてみた』(青土社)、『命が踏みこられる国で、声を上げ続けるということ』(創出版)、『仔猫の肉球』(小学館)など多数。

※「反貧困ネットワーク」世話人、「週刊金曜日」編集委員、フリーター全般労働組合組合員、「こわれ者の祭典」名誉会長、「公正な税制を求める市民連絡会」共同代表。

【プロフィール】

- 1943年2月25日 福岡県小都市生まれ。
- 1970年 部落解放同盟福岡県連合会小都市連絡協議会青年部長
- 1978年 部落解放同盟福岡県連合会筑後地区協議会書記長
- 1989年 部落解放同盟福岡県連合会筑後地区協議会副委員長
部落解放同盟福岡県連合会書記長
- 1990年 部落解放同盟中央執行委員(第47回全国大会)
- 1996年 部落解放同盟中央書記長(第53回全国大会)
部落解放同盟福岡県連合会筑後地区協議会委員長
- 1997年 部落解放同盟福岡県連合会筑後地区協議会顧問(現職)
- 1998年 部落解放同盟中央執行委員長(現職)
部落解放同盟福岡県連合会副委員長
- 2010年 部落解放同盟九州地方協議会議長(現職)
- 2011年 部落解放同盟福岡県連合会委員長(現職)

■現職

反差別国際運動(IMADR)理事
反差別国際運動日本委員会(IMADR-JC)副理事長
部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会副理会長
世界人権宣言中央執行委員会副実行委員長
部落解放中央共闘会議副議長
部落解放地方共闘全国連絡会議議長